

ともに・・・

R7. 9. 30

自ら考え挑戦し ともに高め合う 北杵築っ子の育成

子どもたちのために

自らの授業力向上をめざして

先日、3年生で算数の研究授業を行いました。この日の授業は、“あまりのあるわり算”的学習のひとつ、『35人の子どもが、長いす1きゃくに4人ずつずわっていきます。みんながすわるには、長いすが何脚やくありますか』という問題を取り上げたもので、“みんながすわる”ことに目を向け、“あまり”的処理の仕方を考えるものでした。

子どもたちは、どの子も“ $35 \div 4 = 8\text{あまり}3$ ”という立式・計算は、正確にできています。これまでの学習の成果がしっかりと表れています。

では、問題の答えとなる長椅子が何脚必要なのかということですが・・・、8脚と答えています。余りが3あることは、どの子もわかっているようですが、余りの処理の仕方まで考えが至っていないようです。

そんな中、「問題にみんなが座ると書いてある。余ったらダメ」と、問題文に立ち返り、発言する子どもがでてきました。その言葉を受け、すかさず先生が、「みんなが座るのに、余ってもいいのかな?」と、子ども全員に改めて投げかけます。子どもたちは、この段階で初めて余りの数に目を向け、処理の仕方を考え始めることになります。

「問題に、何脚になって何人余るって書いていない！」

「8あまり3になって、1脚たたずと9脚になる！」このような発言が飛び交い、子どもたちは、この日の学習の肝である“3人が座れる長椅子を1脚増やさなければならない”ことに気づき、問題を解決することができました。

実は、今回の授業は、年齢層の若い職員たちが、自主的に計画・実施したものでした。どうやら夏休み中から集まり、授業をどう進めていけば子どもたちが意欲的によりよい学びを獲得していくかを構想した指導



案作成に取り組んできたようです。時には、定期的に来校される授業力向上アドバイザーの先生にも指導・助言をお願いしたそうです。授業後の事後研究会では、授業力向上アドバイザーの先生や管理職も参加し、実際の子どもたちの学びの具体的な姿をもとに、よかつた点と改善点を明らかにしました。

このように、本校の教職員たちは、子どもたちのために、自らの授業力向上をめざし、努力を重ねています。

いよいよ運動会に向け本格始動！

9月24日（水）、運動会の結団式がありました。結団式は、運動会練習が本格的に始まるにあたり、運動会を通してめざすものを全校で共有するとともに、運動会に向けての意欲を高めるための大変な会となります。

体育館に揃った全校児童に、運営委員会の子どもたちから、代表委員会で決まった全校スローガン“一致団結、全力で盛り上げる大運動会”が紹介されました。

そして、「全校がまとまって協力してほしい」

「思い出に残る運動会になるように、全力で取り組もう」と、呼びかけられました。これから、このスローガンの達成に向け、全校でがんばっていくことになります。

続いて、私から、各チームのシンボルとなる団旗を、赤白団長に手渡しました。これを受け、組毎の練習もいよいよ始まります。



結団式の後、早速赤白に分かれ、色別集会がありました。第1回目の色別集会であり、色毎に応援団が団員へ、意気込みを話します。「大きな声で応援をし、優勝に導きたい」「くじけそうになったら、みんなで助け合い、みんなでがんばっていきましょう」等、自分の役割をしっかりと意識しつつ、自身の思いを自身の言葉で団員に発信している姿が大変印象的でした。応援団の切なる思いが十分伝わっているようで、聴いている団員の眼差しも真剣なものでした。

その後、各組のスローガンを団員で共有したり、競技で勝った時の決めポーズをみんなで練習したりし、この日の色別集会を終えました。



今後は、応援練習も加わってきます。団員の心がひとつとなり、みんなに力や元気を与えるようなすばらしい応援になるようがんばることでしょう。北杵築っ子ならきっとできるはず。期待しています！！